

「若い世代のための地球環境問題ワークショップ等*」 応募申請書

(*講義、セミナー、ワークショップ等)

申請日：2025 年 10 月 15 日	
ワークショップ等開催日（期間）：2026 年 4 月 1 日 ～ 2027 年 3 月 31 日	
応募企画の名称： 高校生のための生物多様性探究ワークショップ	
ワークショップ等の開催を応募する団体の名称： 神奈川県立〇〇高等学校 団体 URL： https://www.marumaru-hs.jp	責任者名（応募者と違う場合は職位記入） 河守 里子 印 職位：校長
1 代表応募者 （高校生が応募する場合には監督者名も記入） 氏名：旭 太郎 年齢：38 歳 職位：理科教諭 監督者名： 年齢： 職位：	
2 連絡先 住所：神奈川県藤沢市〇〇町 1-2-3 電話番号：0466-123-4567 代表者の e-mail アドレス： asahi.taro@marumaru-hs.jp 監督者の e-mail アドレス：	
3 応募企画の概要 3.1 応募する団体について ・応募する団体（学校、グループ、会合等）の概要と活動内容を具体的に記述してください。活動内容が確認できる Web サイト、SNS アカウント、会誌等の掲載媒体がある場合は、ご記載ください。応募する団体が学校の場合は、活動内容を記述する必要はありません。 ・近年注力している地球環境問題に関する活動や、その成果があれば記述してください。 神奈川県立〇〇高等学校は、環境教育に力を入れている県立高校であり、地域との連携を重視した教育活動を展開しています。	
3.2 応募の背景と目的・目標 ・ワークショップ等開催の背景となる具体的な状況や課題を記述してください。 高校生が生物多様性の重要性を体験的に学ぶ機会は限られており、環境意識の向上や探究的な学びへの関心を育むための継続的な教育活動の機会が必要です。特に、地域の自然環境に対する理解と保全意識を高める教育の場が不足しています。 ・ワークショップ等開催の目的と目標を明確に記述してください。 本ワークショップでは、ブループラネット賞受賞者の生態系保全に関する研究を参考に、学校周辺の自然環境の観察と記録を通じて、生物多様性の理解を深めるとともに、科学的な探究力と地域への関心を育てることを目指します。1 年間を通じて、継続的な学習と成果の蓄積を図ります。	

- ・ワークショップ等開催によって期待される具体的な成果を記述してください。

生徒が主体的に調査・分析・発表を行い、報告書として成果をまとめることで、科学的思考力と表現力を高めるとともに、ブループラネット賞受賞者からのコメントを得ることで学びの質を向上させます。また、学校内外での成果発表を通じて、地域社会への波及効果も期待されます。

3.3 ワークショップ等の様式

講義形式での専門家による説明、フィールドワーク形式での観察活動、ワークショップ形式でのグループ討論、発表会形式での成果共有を組み合わせ実施します。高校生が主体的に自然と向き合い、学びを深める構成とします。

3.4 ワークショップの実施方法・内容

- ・ワークショップ等の企画対象分野を明確に記述してください。

生物多様性、生態系保全、環境教育

- ・ワークショップ等に参加する対象者（学年、年齢層）について記述してください。

高校 1～3 年生（15～18 歳）

- ・ワークショップ等の企画内容を具体的に記述してください。

専門家による講義、学校周辺の自然観察、グループによる生物記録とまとめ、成果発表会

3.5 ワークショップ等の開催計画

- ・ワークショップ等の開催日時（長期にわたる場合は開催期間）と開催場所を記述してください。

2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日 神奈川県立〇〇高等学校および近隣の自然公園

- ・ワークショップ等への参加予定者数を記述してください。

30 名

- ・ワークショップ等を開催するまでのスケジュールを具体的に記述してください。

2026 年 4 月：事前学習開始、2026 年 6 月：自然観察と調査活動、2026 年 9 月：中間発表、
2026 年 12 月：成果整理、2027 年 3 月：最終発表と報告書提出

3.6 旭硝子財団への要望

- ・ワークショップ等開催にあたり、旭硝子財団へ要望があれば記述してください。

生物多様性分野の専門家の派遣、調査用資料の提供、成果発表への講評を希望します。

3.7 講評の要否

・ワークショップ等で実施される調査や研究に基づく成果の発表が複数ある場合、発表内容の講評を希望するかどうか○を記入してください。講評は、旭硝子財団の環境問題の有識者、財団が依頼する外部の有識者が行います。

講評を 希望する（○） 希望しない（ ）

4. その他

- ・上記に加え、ワークショップ等の内容をより明確にするために、写真や図表などを添付してもかまいません。

- ・応募書類は、締切日までに指定の方法で提出してください。
- ・応募者に関する情報は、ワークショップ等の運営目的にのみ使用させていただきます。
- ・応募者への連絡は、e-mail で行わせていただきます。
- ・いただいたご応募内容に基づき、ワークショップ等の開催を実施する団体を選考させていただきます。

「若い世代のための地球環境問題ワークショップ等*」 応募申請書

(*講義、セミナー、ワークショップ等)

申請日：2025 年 10 月 15 日	
ワークショップ等開催日（期間）：2026 年 6 月 15 日	
応募企画の名称： 暮らしから考える環境アクション講演会	
ワークショップ等の開催を応募する組織の名称： 千葉未来大学 エコライフ研究会 組織 URL：https://eco.cmu.jp	責任者名（応募者と違う場合は職位記入） 海森 未来 印 職位：
1 代表応募者 氏名：海森 未来 年齢：20 歳 職位：千葉未来大学 経済学部 2 年	
2 連絡先 住所：千葉県千葉市中央区〇〇町 1-2-3 電話番号：090-1234-5678 代表者の e-mail アドレス：eco.sato@cmu.jp	
3 応募企画の概要 3.1 応募する組織について ・応募する組織（学校、団体、会合等）の概要と活動内容を具体的に記述してください。活動内容が確認できる Web サイト、SNS アカウント、会誌等の掲載媒体がある場合は、ご記載ください。応募する組織が学校の場合は、活動内容を記述する必要はありません。 ・近年注力している地球環境問題に関する活動や、その成果があれば記述してください。 千葉未来大学エコライフ研究会は、千葉未来大学の学生によって構成される環境啓発団体で、2018 年に設立されました。学内外での環境意識の向上と、持続可能なライフスタイルの普及を目的に活動しています。本研究会は、学部・学年を超えた多様な活動を展開しています。現在は経済学部・人間環境学部・工学部などから約 25 名のメンバーが所属しており、それぞれの専門性や興味を活かして学際的な視点から環境問題に取り組んでいます。これまで以下のような活動を行ってきました。 ・マイボトル推進キャンペーン 学内でのペットボトル使用削減を目指し、マイボトル利用促進のポスター掲示や SNS 発信を実施。学食との連携により、マイボトル持参者への割引制度も導入しました。 ・地域の節電啓発活動 夏季の電力使用量削減を目的に、地域住民向けに節電方法を紹介するチラシ配布や、商店街での啓発イベントを開催しました。 ・古本・自転車リユースイベント 卒業生から回収した教科書や自転車を新入生に安価で提供するイベントを毎年春に実施し、資源の有効活	

用と新入生支援を両立しています。

- ・「こどもエコまつり」への参加

千葉市内で開催された環境イベントにて、子ども向けのワークショップを企画・運営し、ゲームや工作を通じて環境意識の啓発を図りました。

- ・他団体との連携活動

近隣の大学や市民団体と連携し、環境報告書の共同編集や地域清掃活動、環境映画上映会などを実施。学生の視点から地域社会に貢献する取り組みを継続しています。

- ・活動報告ブログ

<https://blog.ecolife.cmu.jp>

月ごとの活動記録や、メンバーによる環境コラムを公開。

- ・会誌『エコライフ通信』PDF アーカイブ

<https://eco.cmu.jp/publications/ecolife-newsletter.pdf>

年2回発行。活動報告、インタビュー、環境トピックなどを掲載。

- ・SNS アカウント

- Instagram: @ecolife_cmu
- X (旧 Twitter) : @ecolife_cmu

3.2 応募の背景と目的・目標

- ・ワークショップ等開催の背景となる具体的な状況や課題を記述してください。

大学生が自分の生活と環境との関係を実感し、また行動に移すための機会が少ない。

- ・ワークショップ等開催の目的と目標を明確に記述してください。

本講演会では、買い物、食事、移動など日常の選択が環境に与える影響をテーマに、専門家の話を聞きながら、参加者が自分の暮らしを見直すきっかけを提供することを目的とします。

- ・ワークショップ等開催によって期待される具体的な成果を記述してください。

講演後に参加者が感想を共有し、SNS や学内掲示板で環境配慮行動のアイデアを発信することで、行動変容のきっかけを広げることが期待されます。

3.3 ワークショップ等の様式

講演形式での専門家による講演を中心に実施します。質疑応答の時間を設け、参加者が自由に質問・意見交換できる構成とします。

3.4 ワークショップの実施方法・内容

- ・ワークショップ等の企画対象分野を明確に記述してください。

気候変動、環境教育

- ・ワークショップ等に参加する対象者（学年、年齢層）について記述してください。

大学生

- ・ワークショップ等の企画内容を具体的に記述してください。

講師による講演、質疑応答

3.5 ワークショップ等の開催計画

- ・ワークショップ等の開催日時（長期にわたる場合は開催期間）と開催場所を記述してください。

2026 年 6 月 15 日千葉未来大学 本館ホール

- ・ワークショップ等への参加予定者数を記述してください。

50 名

- ・ワークショップ等を開催するまでのスケジュールを具体的に記述してください。

2026 年 5 月：準備開始、2026 年 6 月：講演会実施、2026 年 7 月：振り返りと発信活動

3.6 旭硝子財団への要望

- ・ワークショップ等開催にあたり、旭硝子財団へ要望があれば記述してください。

暮らしと環境に関する専門家の派遣、講演資料の提供、講演後の質疑応答支援を希望します。

3.7 講評の要否

・ワークショップ等で実施される調査や研究に基づく成果の発表が複数ある場合、発表内容の講評を希望するかどうか○を記入してください。講評は、旭硝子財団の環境問題の有識者、財団が依頼する外部の有識者が行います。

講評を 希望する（ ） 希望しない（○）

4. その他

- ・上記に加え、ワークショップ等の内容をより明確にするために、写真や図表などを添付してもかまいません。

- ・応募書類は、締切日までに指定の方法で提出してください。
- ・応募者に関する情報は、ワークショップ等の運営目的にのみ使用させていただきます。
- ・応募者への連絡は、e-mail で行わせていただきます。
- ・いただいたご応募内容に基づき、ワークショップ等の開催を実施する組織を選考させていただきます。

「若い世代のための地球環境問題ワークショップ等*」 応募申請書

(*講義、セミナー、ワークショップ等)

申請日：2025 年 10 月 15 日	
ワークショップ等開催日（期間）：2026 年 12 月 1 日 ～ 2026 年 2 月 28 日	
応募企画の名称： 気候変動ってなんだろう？ミニ講座&クイズ大会	
ワークショップ等の開催を応募する団体の名称： 東京都立環境高等学校 団体 URL： https://www.kankyo-h.metro.tokyo.jp	責任者名（応募者と違う場合は職位記入） 旭 太郎 印 職位：校長
1 代表応募者 （高校生が応募する場合には監督者名も記入） 氏名：青井 硝子 年齢：17 歳 職位：高校 2 年生 監督者：森 次郎 年齢：35 歳 職位：国語科教諭	
2 連絡先 住所：東京都新宿区〇〇町 1-2-3 電話番号：03-1234-5678 代表者の e-mail アドレス：shoko.aoi@example.com 監督者の e-mail アドレス：jiro-mori@kankyo-h.metro.tokyo.com	
3 応募企画の概要 3.1 応募する団体について ・応募する団体（学校、グループ、会合等）の概要と活動内容を具体的に記述してください。活動内容が確認できる Web サイト、SNS アカウント、会誌等の掲載媒体がある場合は、ご記載ください。応募する団体が学校の場合は、活動内容を記述する必要はありません。 ・近年注力している地球環境問題に関する活動や、その成果があれば記述してください。 私たちは、東京都立環境高等学校の有志生徒によるグループです。 学校の授業や探究活動を通じて環境問題に関心を持ち、身近なところから行動を起こしたいという思いで活動しています。これまで校内でのポスター掲示や地域清掃活動などを行ってきました。	
3.2 応募の背景と目的・目標 ・ワークショップ等開催の背景となる具体的な状況や課題を記述してください。 最近、ニュースや SNS など「気候変動」という言葉をよく目にしますが、学校の授業ではあまり深く話す機会がなく、身近な問題として考えるきっかけが少ないと感じます。 また、同世代の友人と環境について話す場も限られていて、「関心はあるけど何をすればいいかわからない」という声も多いです。 そこで、気候変動についての基本的な知識をわかりやすく学びながら、楽しく交流できる場をつくることで、環境問題への理解を深め、身近な行動につなげるきっかけにしたいと考えました。	

- ・ワークショップ等開催の目的と目標を明確に記述してください。

今回の企画は、気候変動について楽しく学び、同世代の仲間と一緒に考えるきっかけをつくることを目的としています。

- ・ワークショップ等開催によって期待される具体的な成果を記述してください。

参加者が気候変動についての基本的な知識を楽しく学び、自分の生活とのつながりを意識できるようになること。

クイズ大会を通じて、参加者同士の交流が生まれ、環境について話し合うきっかけができること。

イベント後に実施するアンケートや感想共有を通して、参加者の意識の変化や学びを記録し、今後の活動に活かすこと。

作成したポスターやクイズ資料を校内に展示・共有することで、参加者以外の生徒にも環境への関心を広げること。

活動報告書をまとめ、学校のウェブサイトや掲示板で紹介することで、他の学校や地域にも取り組みを発信できること。

3.3 ワークショップ等の様式

講座形式とクイズ形式を組み合わせた、参加型のワークショップです。

前半は外部の専門家による気候変動の基礎講座、後半はグループ対抗のクイズ大会を行います。

最後に感想共有の時間を設け、参加者が自分の考えを言葉にする機会をつくります。

3.4 ワークショップの実施方法・内容

- ・ワークショップ等の企画対象分野を明確に記述してください。

気候変動、環境教育

- ・ワークショップ等に参加する対象者（学年、年齢層）について記述してください。

高校 2～3 年生（16～18 歳）

- ・ワークショップ等の企画内容を具体的に記述してください。

気候変動に関するミニ講座（30 分）

グループ対抗クイズ大会（30 分）

感想共有とふりかえり（15 分）

ポスター展示（事前に作成したものを会場に掲示）

3.5 ワークショップ等の開催計画

- ・ワークショップ等の開催日時（長期にわたる場合は開催期間）と開催場所を記述してください。

2026 年 2 月 15 日（土曜日） 東京都立環境高等学校 多目的ホール

- ・ワークショップ等への参加予定者数を記述してください。

40 名

- ・ワークショップ等を開催するまでのスケジュールを具体的に記述してください。

2025 年 12 月：準備開始（講師依頼、クイズ作成）

2026 年 1 月：広報・参加者募集

2026 年 2 月：本番実施・ふりかえり

3.6 旭硝子財団への要望

・ワークショップ等開催にあたり、旭硝子財団へ要望があれば記述してください。

気候変動分野の専門家による講演。

クイズ作成にあたり問題内容、解答の確認。

3.7 講評の要否

・ワークショップ等で実施される調査や研究に基づく成果の発表が複数ある場合、発表内容の講評を希望するかどうか○を記入してください。講評は、旭硝子財団の環境問題の有識者、財団が依頼する外部の有識者が行います。

講評を 希望する（ ） 希望しない（○）

4. その他

・上記に加え、ワークショップ等の内容をより明確にするために、写真や図表などを添付してもかまいません。

- ・応募書類は、締切日までに指定の方法で提出してください。
- ・応募者に関する情報は、ワークショップ等の運営目的にのみ使用させていただきます。
- ・応募者への連絡は、e-mail で行わせていただきます。
- ・いただいたご応募内容に基づき、ワークショップ等の開催を実施する団体を選考させていただきます。